

ともに生きる 共生



ETV特集

すべての人々に尊厳を ～緒方貞子が遺(のこ)したもの～

放送日:2020年1月18日 放送時間:59分

対象校種 小学校高学年以上 中学 高校

対象教科 社会 道徳

この番組の良さ

● 前例のない、新たな人道支援を構築

日本人初、学者初の第8代国連難民高等弁務官である緒方貞子は、前例を覆し、国外ではなく、紛争国の国内にいる難民の救助を、多国籍軍の協力により成し遂げました。また、紛争のただ中、停戦合意のないユーゴスラビアの難民を救うため、のべ、12000回に及ぶ空からの物資援助を行うなど、強力なリーダーシップを発揮しました。緒方貞子の行動と言葉から、新たな人道支援の枠組みがどのようにして築かれていったのかを知ることができる番組です。

● 紛争の背景や日本のグローバル化について考える

紛争やテロの根本的な原因は、「ある社会集団が虐げられている、希望がない」ことであり、「社会的な公正」を保つことが必要であると緒方は話します。また、日本は世界の動きがあっても「参加していない」「全体の中にいない」とも述べています。「安全保障も経済も自立しているのではなく、国際的な相互依存の下に日本は在るのだ」という言葉から、これからの日本のグローバル化を考えることができます。

番組活用のポイント

● 国連難民高等弁務官の仕事とは何か。また、どのようにして難民救済を成し遂げたのか。

中学校歴史分野の「冷戦後の社会」、公民分野の「国際連合」「新しい戦争」の学習での活用が考えられます。国際連合の中で国連難民高等弁務官はどのような役割を果たしているのかを知ることができます。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、もともと審査などを行い、難民を法的に守る機関であったものが、緒方の登場により、人の命を救う機関に変わったことに生徒は驚き、同時に同じ日本人として誇りを感じながら学ぶことができるでしょう。また、緒方の決断で多くの難民が救助される過程は、真のリーダーシップとは何かを考えさせてくれます。

● 紛争やテロの原因は何か、日本のグローバル化はどうあるべきか。

緒方が紛争の原因を語る場面には、現場をずっと見てきたゆえの説得力があります。生徒が紛争や戦争の原因を考えた上で視聴するように、授業を構想すると効果的でしょう。また、緒方の言葉から、日本の今後のグローバル化はどうあるべきかを考えることもできます。中学校公民分野の「グローバル化」においての活用が考えられます。

● 国際貢献(人道支援)の基本的な理念とは何か。

人道支援の根本的な考えは「難民を保護すること、生命の安全を確保すること」です。このシンプルな考えに基づき、「現場に行かないと本当の効果はない」「ペーパーから読むのではなく、人間との触れ合いで学んでくる」という言葉が胸に響きます。番組映像からは、日本のこれからの国際理解はどうあるべきかを考えることができます。道徳の「国際理解、国際貢献」の内容項目において活用が考えられます。



執筆者
能代市立能代南中学校
教諭 嵯峨静人